

イワシの大量死・大量漂着は地震の前兆なのか？

Is a Massive Sardine Die-Off and Beaching Event in Japan an Earthquake Precursor?

*織原 義明¹

*Yoshiaki ORIHARA¹

1. 東京学芸大学教育学部

1. Faculty of Education, Tokyo Gakugei University

2024年1月1日、能登半島でマグニチュード7.6、最大震度7の地震が発生した（気象庁, 2024）。前月の12月7日には北海道函館市に大量のイワシやサバの死骸が漂着し（朝日新聞, 2023a）、同月13日には北海道江差町にも死骸を含むイワシが漂着した（読賣新聞, 2023）。さらに、同13日には三重県志摩市でもイワシの大量死が見つまっている（朝日新聞, 2023b）。こうしたイワシの大量死・大量漂着が、2024年能登半島地震の前兆だったのではないかと、SNSや一部週刊誌で話題になった。

大地震が発生し、その前にいつもと違う出来事（異常現象）が起きると、それが大地震の前兆だったのではないかと、と両者を結びつけて考える人がいる。しかし、同様の異常現象は過去にも起きていた場合が多々ある。例えば、鯨類が集団で海岸に打ち上げられるマス・ストランディングは、2011年東北地方太平洋沖地震の7日前に茨城県の鹿島灘に面した海岸で発生しているが、同じ海岸では、それ以前にも複数のマス・ストランディングが記録されている。そして、その後に東北地方や関東地方で大地震はなかった（織原・野田, 2015）。さらに、2015年4月10日には、2011年3月4日の54頭の約3倍となる156頭のマス・ストランディングが、茨城県鉾田市の海岸で発生している。しかし、その後に2011年東北地方太平洋沖地震のような巨大地震は発生しなかった。また、ボラの大量死についても、地震の前兆ではないかといわれることがあるが、大地震との関連性を見出すことはできなかった（織原, 2022）。

本発表では、新聞記事等から拾い上げたイワシの大量死・大量漂着と、最大震度6弱以上の地震との関連性を統計的に検証した結果を示す。今回の調査でイワシの大量死・大量漂着は、1944年4月千葉県イベントまで遡ることができた。しかし、それ以降は1981年4月新潟県まで37年間報告を見つけることができなかった。その後も、1991年、2001年、2009年と報告は飛び飛びだった。2012年からは本年2024年まで、毎年イワシの大量死・大量漂着が報告されている。

謝辞：本研究は東京大学地震研究所共同利用(2024- KOBO03)の援助をうけました。